



題字 井口 文章  
再刊 第408号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2023

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：卒業会の様子を届け！  
3年間ご愛読ありがとうございました！  
二面：卒業会グラフィティ！  
高校生活最後の行事を振り返ります！

# 最高のイベントを

## 58回生 卒業会開催

3月14日(火)の13時30分から、第一体育館にて「卒業を祝う会以下…卒業会」が開催された。2年目となる今年度も大きな盛り上がりを見せた。今号ではその模様をお届けする。

「最後にして最大のエンターテイメント」と銘打たれた卒業会は、1年生の音楽クラスによる『ハレルヤ』に始まり、教員による『Habit』のバロディMV及び演奏や7つのクラスの発表、有志の歌唱、ダンス、野球部によるリタ芸、軽音楽部の5つのバンドのステージ、本部企画が行

われた。約3時間にわたって行われたこの会は3年間の集大成として盛り上がった。卒業会ではまず、3学年の教員による『Habit』のMVのパロディが上映された。本家を忠実に再現したビジュアル、普段は目にするこ



ステージ上で踊るG組の生徒。先生も生徒も踊り、会場は盛り上がった

「反けん玉組織を倒せ！」3Bによる発表は「けんだマン」。反けん玉組織のケンダマダマダナによって近づく脅威からけん玉の戦士たちが錦城を守るというパフォー

マンスだ。石井智先生が歌う『人になさしく』が始まる。けんだマンを呼び出すため、けん玉の戦士に扮したB組の生徒たちが次々とけん玉を成功させていく。最後に大きなけん玉の球を大玉送りの様な形で体育館を一周して運び、けんだマンに扮した石井先生の

もとに届け、けんだマンがゲを集めた句を一つひとつ講評。好きな句の投票で、最も票を集めたのは8票の『向ける内カメ』。また、北大路さんがトップ賞として選んだのは『先に死ぬなよ』と『あんた

といたい』だった。講演後、北大路さんに取材を

を求めた。北大路さんが考える俳句の魅力は「物事の見方が変わる」ということ。また、俳句を作る上でのポイントとして先入観を捨てることだそう

だ。『今回、みんなで考えた俳句の中7文字については、本来の句にあった卒業のメッセージだけではない、いろんなことを分解して考えると良いと思います』と語る北大路さん。最後に錦城生へ向けて「世の中に溢れる差別について、何をもちて差別とするのか、何をもちて正義とするのか、



ステージ上からけんだマンが登場

としたが、その中でも状況共有して出物として形にすることができました」とクラスメイトへの感謝の思いを口にした。

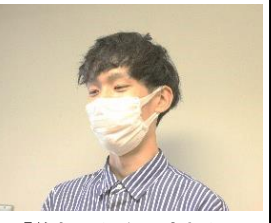
休憩前最後のステージを飾ったのは関口祐未さん(3M)、西澤知依さん(3H)からなるユニット『Airstream oemeria』。『私は最強』、『藍二重』、『君はロックを聴かない』、『inside you』の4曲をカバーし、最後に自作曲の『Re:BLUE』をMVとともに披露した。

2人でユニットを組んだきつかけは関口さんが西澤さんを誘ったことだそうだが、西澤さんも関口さんを誘おうと

行った。北大路さんが考える俳句の魅力は「物事の見方が変わる」ということ。また、俳句を作る上でのポイントとして先入観を捨てることだそう

だ。『今回、みんなで考えた俳句の中7文字については、本来の句にあった卒業のメッセージだけではない、いろんなことを分解して考えると良いと思います』と語る北大路さん。最後に錦城生へ向けて「世の中に溢れる差別について、何をもちて差別とするのか、何をもちて正義とするのか、

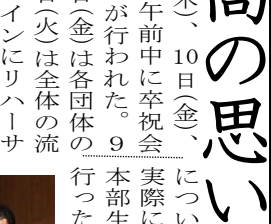
## 運営チームが卒業会を振り返る



「終わった今は疲れたという感情が大きいです」

卒業会の運営チームの大石幸次郎さん(3J)は卒業会を終えて「疲れました」と話す。卒業会の運営チームが結成されたのは1月下旬で、内定者講習の参加者から募られたという。運営チームが学校に集まって活動したのは5回ほどで、残りの活動はLINEなどを使って連絡を取り合っていた。連絡がうまく取れず、大変だったときもあったという大石さん。「相手のことを考えて連絡したり、予備の連絡をしたりすることの必要性を学びました」と振り返る。最後に卒業会の運営チームと錦城生に向けて「みんなにお疲れ様でしたと言いたいです」と話した。(鳥)

## 最高の思い出にするために



司会の練習の様子

3月9日(木)、10日(金)、14日(火)の午前中に卒業会のリハーサルが行われた。9日(木)、10日(金)は各団体の発表を、14日(火)は全体の流れの確認をメインにリハーサルが実施された。

14日(火)のリハーサルではまず運営生徒と発表のある生徒で会場を設営した。その後、本部企画や各団体が各々練習。10時頃から全体を通してのリハーサルが始まった。本番を想定し、手の空いている生徒が観客役となって進めつつ、スムーズに行かなかった部分はその都度動きを確認。リハーサルでは各団体がそれぞれが一部しか実演しなかったものの、本番さながらの盛り上がりを見せた。(麦・鳥)

## 編集後記

3年間、新聞を読んでいた皆さんがどう過ごされたか、錦城高校新聞は「みんなで作る錦城高校新聞」というスローガンにもある通り、私たち編集委員だけでは作れません。取材に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。

「一期一会」の言葉を感じながらこの3年間新聞委員編集委員で活動してきました。取材を通して関わった学校内外の高校生や先生方、編集委員との出会いはかけがえない宝物です。今まで一度でも取材を受けたくださった方、錦城高校新聞を読んでくださった方、そして3年間一緒に活動してきた新聞委員会編集委員の皆さん、本当にありがとうございました。

58回生で新聞委員会編集部として活動してきたのは以下の7人です。

- 【鳥】野村美詞(3M)
- 【甘】赤坂聖弥(3J)
- 【紅】藤生穂乃花(3J)
- 【桜】村松優貴(3E)
- 【千】小池彩絵(3A)
- 【麦】皆川大和(3C)
- 【抹】福士誠吾(3B)

## 新たな視点で見る「笑い」

1月24日(火)の3、4時間目に多目的ホールにて3年生の内定者講習の一環として、俳句の北大路翼さんによる俳句の講義が行われた。北大路さんは昨年の2月にも錦城で講演を行っており(錦城高校新聞380号2面参照)、今回は2度目の講演となった。

## 投票はClassiを用いた

今回の講演は感動や笑いをテーマに行われた。「笑いほどよいなときに起こるのか」

## 反けん玉組織を倒せ!

3Bによる発表は「けんだマン」。反けん玉組織のケンダマダマダナによって近づく脅威からけん玉の戦士たちが錦城を守るというパフォー

## 盛り上がった本部企画

本部生徒による企画では、クイズとプレゼント企画が行われた。クイズ企画では、先生対生徒での3番勝負が行われ、1勝目はフリーイング対決、2勝目はフリスロー対決、3勝目は玉入れ対決で、1勝目は先生チームが勝利したものの、その後の2戦目、3戦目を生徒チームが獲得し、2対1で生徒側が勝利した。普段見られない光景に、会場言葉のイメージに騙されずに生きていくと語り、「メッセ



～開会宣言～



生LIVE!



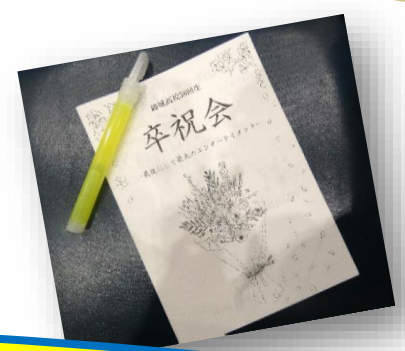
響け!



先生方の企画も



ペンライトで盛り上がり!



# 58回生 卒祝会 Graffiti!



ヲタ芸で魅せる...!

先生 VS 生徒



先生も一緒に♪



LET's dance!!



珠玉の映像!



感謝



担任の先生に花束をプレゼント!